

学校だより

翔 空

No. 20 平成23年 10月7日(金)
郡山市立喜久田中学校長 大堀 昌弘

「翔空」の由来 〈校舎のシンボル〉

壁画「空へ」を受け、風光明媚なこの学舎から、希望に燃え限らない空へ、力強く翔んでほしいという願いを込めて、翔空の碑ができた。

【生徒の活躍が何より】

校長として、部活動に参加できないために、大会等でなければ生徒達の成果がわからないのは、私にとってとても歯がゆい感じがします。しかし、バドミントン部が県中大会に参加できたり、吹奏楽部が合奏祭で活躍しているのを見るにつけ、本校の生徒の頑張りがしっかりと目に付くようになりました。何よりうれしいのは、精一杯力を出し切ろうという生徒達の姿勢です。結果は、実力はさることながら運なども影響しますので、そんなに問題にしているません。

がんばれ喜久田中生！

【英語のことわざ ㊟】

今回の諺は、「学問に王道なし」ですが、その真意はどこにあるのでしょうか。

"There is no road to learning"

直訳：学ぶことに一つとして道はない。

意訳：「学問に王道なし」

どんなことを知るにしても、知識を得るためには基礎から一つずつ学び、積み重ねて努力しなければならないということ。たとえば、王様であっても、簡単に知識を得る方法などはないという教え。紀元前300年ごろのエジプトの王様（トレミー）は、空間の図形を研究する学問（幾何学）を学んでいたようですが、その学問を教えていたユークリッドという数学者に、「簡単に学ぶ方法はないのか」とたずねたときに、ユークリッドが「幾何学に王道なし」と答えたことに由来しているようです。

読み方：「ゼア イズ ノー ロード トゥ ラーニング」

「正しいほめ方・使わない方が良い言葉」

～ニックネーム尾木ママから学んだ～

今回は、前回の「ほめて育てる」に関連して「正しいほめ方・使わない方が良い言葉」というトピックについて、毎週土曜日に放送されている「テレビ寺子屋」という番組からその極意（大切なポイント）を紹介します。教育評論家（ニックネームは尾木ママ）の尾木直樹氏によると、以下のような指導が理想的なものとなります。

1 正しいほめ方（ほめて育てるために）

具体例：泥だらけになって帰ってきた子に対してまず、「どうしたの？」と理由を聞く



次に、「そりゃあ、大変だったね」と同情する



次に、「この次は、こんなふうに汚しちゃいけないわよ」と諭す

同時に、(子どもの反応をよく見てから)「えらいなあ！約束してね」とほめる(エンパワーメント～勇気づけ・動機付け)

㊟ つまり、ポイントは、『ほめることができる状況を会話の中から作り出すこと』（コミュニケーション能力）すべての人間関係の潤滑油となる。

2 使わない方が良い言葉

具体例 ①「×××だめでしょう」（怖い表情で）

→「○○○した方がいいわね」

②「早く・・・しなさい」（ヒステリックに）

→「どうしたの？」（子どもの目線をしっかり見てから）「あっ、そうか。○○なんだね」

③「大丈夫？平気なの？」（自信をなくさせる言葉）

→（具体的に）「例の○○準備できたの？」

㊟ ポイントは、相手に安心感や自己肯定感を与えるような言葉かけをすることです。なお、一日に最低でも4～5回使うと良い言葉は、「ありがとう」です。声にきちんと出すことで、子どもの行動に反映します。恥ずかしがらずに、言葉に出して言いましょ。決して自己を卑下することにはなりません。）

芸術の秋
読書の秋
スポーツの秋

あなたはどれですか？



食欲の秋